



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第17号

2024年1月19日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「2023冬休みわくわく算数教室」振り返って

12月24日から28日に開催されました、「冬休みわくわく算数教室」。さっそくSPさんと子どもたちの感想を読ませていただきました。子どもたちの感想は、「楽しかった」「〇〇先生でよかった」「また参加したい」といった声にあふれています。SPさんたちの力ですね。SPさんの感想はどれも秀逸でした。例年、この「わくわく算数教室」にはたくさんの意欲・意識の高い学生さんが参加をしてくれていますが、今年は特に「わくわく算数教室」の“ねらい”※をよく理解して、取り組んでくれたSPさんが多かったのだと感想を読ませていただき思いました。だからこそ、今回の算数教室では本当に子どもたちが楽しそうに、一生懸命に算数に取り組む姿がたくさん見られたのだと思います。参加してくださったSPさん、ありがとうございました！来年も夏休み・冬休みともに開催予定ですので、また多くの学生さんが参加をしてくれることを心待ちにしています。

では、子どもたちの喜びの声、SPさんのすばらしい気づきがたくさん書かれた感想、ぜひご一読ください。

※「わくわく算数教室」のねらい・・・「わくわく算数教室」は学力補充の取り組みの一環として行いますが、「学力の向上」以上に、**算数嫌いをなくし、算数を学習することの楽しさを味わわせること**を第一の目標としています。

子どもの感想

<1年生>

- 私は、足し算の繰り上りがある算数をしました。意外と難しかったです。わくわく算数教室で苦手な計算ができる嬉しかったです。わくわく算数教室に参加できてよかったです。またわくわく算数教室をやりたいです。明日もあるので頑張ります。
- いっぱい間違っちゃったけど頑張ってできました。だんだん分かってきました。いっぱいできて嬉しかったし、楽しかったです。

<2年生>

- 先生たちがいっぱい教えてくれたので、すごくよく分かりました。いっぱい勉強しました。11枚書きました。いっぱい勉強できたので楽しかったです。次も來るので頑張ります。
- 1年生の時もわくわく算数教室をやったので、2年生でもわくわく算数教室に來ました。今回もやってよかったです。

<3年生>

- 難しい問題は大変だったけど、昨日より解けた。嬉しかった。すごく集中してできて、楽しかった。
- 苦手な割り算と文章問題をやって、今日一日で克服して上手にできるようになった。今度は他の苦手なことをこのわくわく算数教室で取り組んで行きたいです。今日は楽しかったです。

<4年生>

- 楽しかった。ほとんど全問正解だった。今日はプリントをいっぱいやったので、少しだけ前よりも算数が好きになった。お兄さん先生が教えてくれたので、前までずっと勘違いしていた所も直せた。
- I先生が優しく教えたり話しかけたりしてくれたから、楽しく勉強できました。苦手な文章問題も少しは得意になれたと思います。また来年もわくわく算数教室に行きたくなりました。

<5年生>

- 宿題もできだし、苦手な平均と単位量ができる、やりたいことができてとてもよかったです。苦手なところの復習をして、苦手を克服できました。
- 楽しかった。M先生でよかった。中学の勉強も教えてもらえて少し賢くなった気がする。苦手な算数が好きになった。

<6年生>

- 苦手な分数の割り算や掛け算の復習ができる、前より苦手ではなくなりました。もっとわかるようにしていきたいなと感じました。今日は今までよりさらに分かるようになって嬉しいです。もっと行きたかったです。
- 今日は、小学校最後のわくわく算数教室でした。円の面積、いろいろな形の体積を今日は勉強しました。先生たちが優しく教えてくれたので、たくさん勉強ができました。中学校になっても、小学校で習った問題を応用して頑張りたいです。

SPさんの感想

今回担当した2名の児童は、ほとんど自分のペースで活動を進めることができていた。「1年生の問題は簡単だから、2年生の問題をやる！」と言って、数の大きい足し算の問題に取り組んだが、少し躊躇した。しかし、1年生の学習内容の基盤が出来上がっていたため、つまずきを解消するとすぐに解けるようになった。“できない”だけでなく、“何が原因でできていないのか”を分析し、その子に応じた指導をすることで、よりよい学びへつながっていくと感じた。

〔愛知学院大学〕

頭の中だけで考えてしまっているなと思い、「先生に説明して」と言うと上手く説明できなことがあります。答えが合っている=理解している、というわけではないことを学びました。また、私も一瞬悩んでしまった問題を、一生懸命教えようとしてくれた姿はとても印象に残っています。一緒に考えることができて、楽しかったです。上手く教えられないことがあったことで、自分自身も理解が甘かったことに気づくことができました。

〔中部大学 1年〕

最初は子どもたちも意欲的にやりたい箇所を探す様子が見られたが、徐々に手が止まったり話しを始めたりするようになり、モチベーションを維持させることが難しかった。巡回をされていた現役の先生が、子どもたちに掛け算の計算の勝負を提案してくださいり、子どもたちの意欲が再燃したのを見ることができた。学年もクラスも一緒の子が集まっていて、先生や私たちの先導次第で実りのある時間になるかどうかが決まるな、と実感した。

〔名古屋学芸大学 2年〕

一人の男の子が冬休みの宿題をやっていましたが、途中で飽きてしまい、「算数じゃなくて国語をやりたい」と言ってやりだしました。無理に算数をやらなくても、意欲がある教科を勉強するのもいいかもと思いましたが、隣に座っている女の子が真面目で、「算数をやらないといけないんだよ！」と言い合いになってしまい、その時は対処に困りました。最後には3人でレベルの高い面積のプリントと一緒に進めました。1問だけプリントにひっかけ問題があり、ひっかかってくれました。男の子にとっては冬休みの宿題は簡単だったようで、もっと難しい問題をやって考えさせたいと思っていたので、最後にしつかり頭を働かせられる問題を持って来れてよかったです。3人違うことを学習していると、一緒に勉強するのは大分大変だなと思いました。

[愛知教育大学 3年]

今日は1対1だったので、いつもより一人の子どもと深く関わることができました。今日担当した児童が、「普段の算数の授業は分からなくて、寝ちゃったり落書きしちゃったりするんだよね～」と言っていましたが、今日は難しい問題もチャレンジして、私の説明も真剣に聞いてくれて、とても嬉しかったです。集団授業ではできないことが、個別指導であるこのわく算でならできることもあるのだと改めて感じました。また、口で説明したら理解できなくても、紙に一つずつ丁寧に計算の過程を書くと、少し複雑な計算でも理解してくれたので、文字で伝えることも大事だと感じました。今日は初めて司会もさせていただきました。とても緊張しましたが、子どもたちが元気に反応してくれたので助かりました。現場に出るまでに慣れていくたいです。

[南山大学 3年]

70と80の真ん中の数字は何か？という問題で、大学生の自分にとっては直感で答えられる問題でも、教えるとなるとどのように説明したらよいか分からず大変だった。しかし、他の大学生にどのように説明すると分かりやすいか聞いてみると、「数直線にするといいよ」と言われ、わくわく算数教室は子どもたちと関わって学ぶだけではなく、大学生同士でも学び合いができる貴重な場であることを実感した。大学生はそれぞれ得意な学年、専門分野・教科が異なるので、それぞれの専門分野を活かしてこれからも大学生同士でも交流し、助け合い、学び、教育の実践力を向上していきたい。

[愛知淑徳大学 4年]

本日のわくわく算数教室では、小学5年生と6年生の児童を担当させていただきました。最初から真剣に取り組んでいた児童もいた一方で、少し集中力に欠ける児童も見受けられたため、肯定的な声かけを心がけました。他の科目と比べて算数に対して苦手意識を持っていると感じたので、答えが違っていても考え方方が合っていれば積極的に褒めて、児童の意欲を向上させることに努めました。本日の活動では、教え方も含め児童から多くのことを学ぶことができました。今回得られた学びを基に、明日の活動も取り組んでいきたいと思います。

[名城大学 3年]

今日は、午前2人、午後1人の担当だったので、以前よりも一人ひとりを見る時間を取りました。1年生の児童が、「今日の勉強すること」の欄に「～がしたい」と書いていて、自分から勉強したいという気持ちになっていることがすごいと思いました。午後の部では、6年生のAさんを担当しました。少し難しい子とのことでしたが、他のSPさんにアドバイスをいただき、特に問題なく一緒に勉強を進めることができました。周りのSPさんと情報を共有したり、協力したりしながら児童の対応をすることで、よりよいかかわりができると感じたので、これからも大切にしていきたいです。

[金城学院大学 2年]

前回参加した夏のわくわく算数教室よりも、今回は児童とたくさんコミュニケーションを取ることができた。今回は、主に掛け算の問題を多く見て、「楽しく分かる」にはどうすればよいかを考えた。とても良い経験になったとともに、教員に必要なものは何かを学ぶことができた。これからもよろしくお願いします！

[至学館大学 3年]

午前の2人は勉強に対するやる気があり、私としてもさまざまな取り組みができる勉強になった。しかし、午後に担当したBさんは、私が何をしてもほぼ無反応で、Bさんが何を勉強したいのか読み取りにくかった。そして、おそらく学校での勉強にあまりついて行けずに困っていることが分かり、6年生の各単元の基礎問題に取り組ませた。もし次に担当する事があれば、どこの勉強からつまずいているのかをきちんと調べてサポートしたい。

[日本福祉大学 3年]

今日は1対2ということで、落ち着いて指導することができました。苦手な単元を取り組む子どもはどうしても集中力が長く保てず、どうしたら楽しくできるか苦戦しました。“暇な時間を作らない”ことを目標として、まずは各自で持ってきたプリントに取り組ませました。午後は、2年生の子が3年生で習う割り算に挑戦しました。分からぬ時は、九九でヒントを出しながら一緒に計算しました。あつという間の4日間でした。わくわく算数教室に参加する前と今とでは、子どもたちに接する態度や子どもを見る視野がかなり広がったと感じています。私にとってとても学びの多い機会でした。4日間、楽しかったです。

[中京大学 3年]

普段、なかなかゆっくり話をする機会がないのですが……。教師を目指しているS Pさんに伝えたいことがあります。学校以外の場所・社会に目を向けてほしいということです。

私は、小学生の時から教師を目指していましたが、糸余曲折あり大学卒業後は一般企業に勤めていました。それまで教師を目指して一直線に進んできたので、私はそれ以外の職業には目もくれず学生時代を過ごしていました。そしていざ、企業に就職した時、愕然としました。世の中は、“お金で動いている”的だ。何を当たり前のことを言っているんだ？と思われるかもしれません、その通りです。当たり前のことです。しかし、世間の言う“社会”と“学校”という社会には大きな違いがあったのだと知りました。

みなさんが教師になったら、何を追求して働いていくと思いますか？きっと、多くの人は、「子どもの成長」を追求して学校で働いていかれると思います。日夜、子どもたちの成長を願い、「どうしたらこの子たちが成長できるのか」、「そのために自分はどう指導していくべきなのか」、悩み、学び続けていかれると思います。では、世の中の大半の人、特に企業で働く人や経営をしている人は、何を追求して働くのでしょうか……。それはズバリ、「売上=お金」です。みなさんが子どものことを考えているその間に、「どうしたらお店（会社）の売り上げがあがるのか？」を考え、努力をしていきます。そして、みなさんがこれから関わっていく子どもたちの多くは、そんな“学校の外の社会”で生きていきます。目の前の子どもたちと一緒に育てていく協力者である保護者の方々も、そんな“社会”の中で生きています。“学校”という社会しか見てこなかった私にとって、“学校の外の社会”は、こんなにも厳しいものか、こんなにも根本的に違うあるものか、と身に染みて実感を感じました。

教師を目指すみなさんに、教師を目指すみなさんだからこそ、ぜひ“学校の外の社会”にアンテナを張ってほしいと思います。厳しい言い方をすれば、学校という社会しか知らない先生が“学校の外の社会”で生きていく子どもたちを育てられるのだろうか、とも思います。

“学校の外の社会”を知るために、いろいろなところに出掛けたり、本を読んだりするのもいいかもしれません。ニュースや流行のアニメ・ドラマを見るのもよいでしょう。でも、一番は教師以外の友達や知り合いとの交流かなと思います。教師になると多忙で、どうしても同業者との関わりが多くなりがちですが、ぜひ大学生のうちから教師以外の職業を目指している友人と交流を大切にしてください。“学校の外の社会”に生きている人の言葉を聞くと、ハッとさせられることもたくさんあると思います。もちろん、教師として働く以上、その道の「プロ」として研鑽を重ねていくのは大切だと思います。しかし、多様性や変化の激しい時代になっているからこそ、それだけではいけないのではないかと最近よく考えています。以上、長くなりましたが、少しでもみなさんの心に残れば幸いです。